

市長のタウンミーティング 加積地区

(敬称略)



開催日時 平成29年8月30日(水) 19:00～21:00
 会場 農村環境改善センター
 参加人数 137名

開会挨拶 加積地域振興会長 廣瀬久雄
 書記 本田陽一

市政への提案、意見

番号	地区名	項目	内容
1	加積	まちづくり	まちづくり交付金を様々な行事で使わせていただいている。振興会に何を望むのか。また、新たな事業を提案したら予算をつけていただけるのか。
2	加積	まちづくり	隣接する地域の境界が混在している所がある。吉島小学校開校以来、校区と地区の不一致がある。地区運動会など様々な課題が生じている。この問題をどのように解決しようとしているか、方向性について尋ねたい。
3	加積	まちづくり	防災面からみたまちづくりを提案する。豪雨のテレメータが片貝第四発電所に設置されているが、平野部にも雨量センサーを設置して、中川用水や鴨川用水など水門を自動化できないか。
4	加積	まちづくり	子供を産むには結婚することが前提になる。結婚しない人が増えているように感じる。婚活支援はどのような状況か。
5	加積	教育環境	一時保育の回数を増やしてほしい。六郎丸・袋・横枕地区の中学生の冬場の通学について、スクールバス等の導入を検討してもらいたい。
6	加積	子育て まちづくり	産婦人科のオープンは再来年の4月とのことだが、早くして欲しい。また、職場が無いとIターンもUターンもできない。ゲームやIT産業の企業誘致を早くして欲しい。
7	加積	教育環境	用水路がむき出しになっている所が結構ある。中学生が自転車で川に落ちたと聞いたこともある。柵がついているところも街より少ない。安全面の対応をしていただきたい。
8	加積	教育環境	滑川市は土曜学習が実施されている。魚津市は検討しているのか。また、人数学級制について、検討していただきたい。
9	加積	まちづくり	パークマネジメントについて、これからの維持管理をどのようにするか意見を伺いたい。公園は災害時に住民が一時避難をする場所になり得る。災害時の備蓄品は公園内に備わっていた方が良いと考える。住民の希望をパークマネジメントの中で意見交換できればと思う。
10	加積	まちづくり	15年前に市町村合併の騒ぎがあった。当時の市長は合併の希望はあったものの魚津市は合併しなかった。これは魚津市にプラスになったのか、マイナスになったのか。
11	加積	まちづくり	アンケートについて、漠然と概要を問う質問が多いように感じた。現在の満足度調査も良いがよりジャンルによって対象者を絞って、子育てなら子育て世代を対象にして、より深い質問をすると、今まで得られなかったニーズが出てくるのではないか。

その他に4件のご意見あり

平成29年度 市長のタウンミーティング実施報告書

地区名	加積地区	日時	8月30日(水) 19時00分より 21時00分まで		参加者数	137名
会場名	農村環境改善センター	司会	企画政策課 上田 哲也	書記	下水道課 本田 陽一	
市側の出席者	市長 村椿 晃 企画総務部長 川岸 勇一 企画政策課長 赤坂 光俊 ほか		地区からの 主な参加者	地域振興会長、市議、区長等		

1. あいさつ

地域振興会長 廣瀬久雄

2. 市長談話

市長 村椿 晃

魚津市の現状、「子育て」「教育環境」「まちづくり」について

○うおづのうまい水モンドセレクション最高金賞受賞報告

○人口について

- ・魚津市の現状

○子育てについて

- ・安心して産み育てる環境の整備
- ・仕事と家庭の両立等
- ・経済的負担の軽減

○教育環境について

- ・小学校英語教育の推進
- ・教育用ICT環境整備
- ・通学の安全、安心対策
- ・ふるさと教育の推進

○まちづくりについて

- ・定住、空家対策
- ・道路、公園維持管理

○災害に強いまちづくりについて

(浸水対策、津波ハザードマップ、ミサイル)

- ・ハード対策
- ・情報伝達体制の強化
- ・防災力の向上

3. 意見交換（地区からの振興策等の提言・提案等について）

○まちづくり交付金について（まちづくり）

まちづくり交付金を様々な行事で使わせていただいている。振興会に何を望むのか。また、新たな事業を提案したら予算をつけていただけるのか。

（村椿市長）

まちづくり交付金について、私の考えとしては充実させていくべきと考えています。地域振興会の役割は、行事だけではなく、生活・福祉面など従来行政が担っていたものを、地域と行政とが連携してやっていく時代になると思います。そうなると地域振興会は地域住民の生活を支える機能が強まっていきます。その時に、今のままでは無理で、人材育成も併せてやっていかなければならなりません。全国的にはやっているところもあります。

行政の補完機能とまでは言いませんが、役割は確実に増えていくと思います。私の思いとすれば、役割の広がりを見せながら、地域振興会の力を付けていって、交付金を充実させていけないかと考えています。

すぐにはできないので、どうしていくか市で検討していますが、皆さんの意見を聞いて一緒にやっていきたいと思っています。

また、企業も地域の一員なので、企業の関わりも強めていきたいと考えます。お金を出すという意味ではなく、企業が持っている強みを地域の生活に活かしていく社会を目指しています。

一概に交付金が増えるという訳ではなく、そういったことを考えて、制度設計しなければならないと考えています。

○校区と地区の不一致について（まちづくり）

隣接する地域の境界が混在している所がある。吉島小学校開校以来、校区と地区の不一致がある。地区運動会など様々な課題が生じている。この問題をどのように解決しようとしているか、方向性について尋ねたい。

（村椿市長）

立石地区は旧経田村であったため行政区は経田地区ですが、学区は旧天神小学校区で合併し吉島小校区となり、現在は清流小校区という経緯があります。

地域の行事は校区単位で行われているので、統一できればいいと思っているが、一番大事なのは立石地区の住民の皆様の思いです。今現在は満場一致ではないと聞いています。その状況で市から方向性を出すのは早いと考えています。

○水門の自動化について（まちづくり）

防災面からみたまちづくりを提案する。豪雨のテレメータが片貝第四発電所に設置されているが、平野部にも雨量センサーを設置して、中川用水や鴨川用水など水門を自動化できないか。

（村椿市長）

水門の減水処理について、現在、市で防災上重要な水門は28か所あり、市職員が直接操作しています。自動制御方式にすれば夜間でも安心ですがお金がかかります。1件当たり1

千万円がかかります。

黒部や滑川に聞くと、一部自動制御の水門があるとのこと。魚津は島尻に1箇所しかありません。どの水門を自動制御すると安全が高まるか場所を選ぶ必要があります。どこが良いか勉強したうえで、費用面で効果的にできるのであれば、やっていきたいと考えています。

○婚活支援について（まちづくり）

子供を産むには結婚することが前提になる。結婚しない人が増えているように感じる。婚活支援はどのような状況か。

(村椿市長)

いくつかやっています。基本的には若い男女の出会いの場を多くするものを多く行っています。近々ではミラージュランドでバーベキュー、8月には片貝キャンプ場で行いました。

十分ではないと思いますが、まずは出会いの場をしっかりと作ることは重要だと考えています。そのうえで、実際に魚津での生活をイメージできる取組ができればいいと思っています。

○学童保育・中学生の冬場の通学状況について（教育環境）

小学3年の子がいて学童保育を利用している。週5日利用はできるが、習い事や6時間目が増えて、週2回程度利用したくてもできない。一時保育は月5回までなので、回数を増やして欲しい。

中学生の冬場の通学状況について、六郎丸・袋・横枕は4~11月は自転車通学だが、冬季は降雪や凍結時に自転車は禁止される。横枕から東部中までは6kmあり徒歩通学は困難で、大半は親が送っている。地鉄バスが通っているが、1本しかなく片貝地区の子供で満員になり乗れない。また片貝地区にあるバスの補助も無い。下校時間にも対応しておらず、3時に終わっても迎えに行けない。バス停も学校から遠い。部活終わりに電話で親を呼ぼうにも、電話には行列でかける前に学校から出される。登下校に対応したスクールバス等の仕組みがあると助かる。通学の不安が減れば転入する若い世代も増えると思う。親は高校卒業まで送り迎えに労力を使っているのも市で手助けしていただけたら助かる。

(村椿市長)

学童保育については、精一杯やっているつもりですが、個々の事情すべてはカバーできていません。どのようにカバーできるか、利用の状況を聞きながら考えていきたいと思っています。

通学の問題は、国の基準だと小学校4km、中学校6km以内は徒歩等で、それを超えるとバスや通学補助が出ます。魚津では小学校を3kmとしています。中学は国と同じ6kmを基準としています。保護者の苦労はよくわかりました。中学の通学支援は保護者間で意見が分かれるところではありますが、気象条件や工事などによって危険な状況が続く場合に、何らかの対応をしなければ子供が危ないので、どんな場合に応援するかしっかり考える必要があると考えています。冬期間全てというのは難しいですが、他の地域も含めて通学状況について聞きながら、どんなことが考えられるのか勉強していき

いと思います。

○産婦人科のオープン、ゲームやIT産業の企業誘致を早急にしてほしい。(子育て、まちづくり)

産婦人科のオープンは再来年の4月とのことだが、早くして欲しい。また、職場が無いとIターンもUターンもできない。ゲームやIT産業の企業誘致を早くして欲しい。

(村椿市長)

できるだけ早急に実現するように頑張りたいと思います。

○用水路の柵の設置等、通学安全対策について(教育環境)

田から住宅地になったところに住んでいて、用水路がむき出しになっている所が結構ある。中学生が自転車で川に落ちたと聞いたこともある。柵がついているところも街より少ない。安全面の対応をしていただきたい。

(村椿市長)

「通学の安全対策」の喫緊の課題に登下校見守り隊員数の減少があります。今年度の事業で「魚津市小中学校通学安全プラン」を策定する予定です。

子供の通学の安全を確保するのに2つのことが重要であります。

1つは通学路を作るとか、危険な個所に柵をつけるなど、ハード面の対策。これについてはきりがありません。

もう1つはソフトの対策で、見守る仕組みを手厚くしたいと思いますが、逆に関わる人が減っています。ここを何とかしたいと思っていて、そのために小中学生の通学の安全をどうやって高めていくかという取り組みを行っている最中です。地域の人が減っている中で地域にだけ負担を求めることはできないので、民間の企業などに関わってもらい、朝夕の通学時の安全性を高められないか話しをしている最中です。

本当に危険な個所のハード面の対策は優先的にやっていきます。併せて、地域や企業と協力して、通学の安全を高める取り組みもやっていきたい。ご指摘いただいたところについては、一度現地を見たいと思います。

○土曜学習の実施について(教育環境)

清流小学校PTAでまとめた意見をお伝えする。

滑川市は土曜学習が実施されている。魚津市は検討しているのか。

もう1点、少人数学級制について、検討していただきたい。大人数も健全育成になると思うが、親の目線からは少人数で見てもらった方が、先生の目が行き届く。

(村椿市長)

土曜授業を行っているのは県内では滑川市だけです。平日の授業を減らし、その分を土曜日に持っていく仕組みで、**月一回程度実施されています**。効果については承知していないので、聞いてみたいと思います。併せて問題点についても聞いてみたいと思います。土曜学習の実施は、現状では部活などもあり厳しいと思っています。もしやるのであれば、対策もしないといけないので、メリット・デメリットについては詳しく調べたいと思いますが、メリットが多ければもっと広まっているのではと思います。

少人数学級については同感で、全学年でやって欲しいと思います。しかしながら、これをやると先生の人数を増やす必要があり、給料もその分増えるので、国は簡単には認めてくれません。国や県に教育環境が充実するように働きかけていきたいと思っています。

○パークマネジメントについて（まちづくり）

パークマネジメントが紹介されてある。これからの維持管理をどのようにするか意見を伺いたい。

公園は災害時に住民が一時避難をする場所になり得る。災害時の備蓄品は公園内に備わっていた方が良く考える。こういった住民の希望をパークマネジメントの中で意見交換できればと思う。

（村椿市長）

市には**街区**公園が24か所、団地の一部などの公園が68か所あり、数は結構あります。パークマネジメントというのは、これまでどの公園も似たような機能だったものを、地域の住民や社会環境によって、地域に合った形で再整備していくというやり方です。言ってみれば公園のリニューアルです。これについては、現在は勉強中の段階です。

富山市では半分を地域の農場にして半分を広場にしたりとあります。魚津市の公園をレクリエーションだけではなく生活面も考えて、利用される公園に戻していきたいと考えています。その時に大事なことは、管理は利用する地域住民で行うこととなります。ここが制度のミソです。責任もついてきます。

国土交通省は公園を防災に生かすことを考えています。公園の再利用時にこういった機能を付加するかは国に提案できますので、皆様の意見をいただきたいと思います。

○平成の大合併時に市町村合併を行わなかったことによる市への影響について

（まちづくり）

15年前に市町村合併の騒ぎがあった。当時の市長は合併の希望はあったものの魚津市は合併しなかった。これは魚津市にプラスになったのか、マイナスになったのか。

（村椿市長）

プラスかマイナスかは、どの視点で見るかで変わってきます。経営で見るならば、ある程度合併が進んだ方が良くと思います。今、合併をした市町村の住民が良かったと思っているかという意見の分かれることだと思います。合併を進めると、身近な窓口や施設など拠点は整理される宿命にあり、行政サービス利用時の移動距離が長くなるなど生活に負担が生じます。しかしながら、税金は高くない。どちらをとるか、に行き着くことになります。

魚津のことだけ考えると現時点では苦しい時期を過ごしています。合併した市町村は公共施設を整備する有利な財源がこの10年与えられてきました。これが絞られてきています。魚津は合併しなかったため、これから急に苦しくなることは、制度上はありません。しばらくは合併を選択しなかった魚津として、将来を見据えて地域を組み立てていけると信じて、がんばっていききたいと考えています。

○市民満足度調査について（まちづくり）

アンケートについて、過去に市民満足度調査に当たったことがあるが、全体的な印象として、満足しているかどうか、というように漠然と概要を問う質問が多いように感じた。必要な回答を出せる分野は人によって違う。現在の満足度調査も良いがよりジャンルによって対象者を絞って、子育てなら子育て世代を対象にして、より深い質問をすると、今まで得られなかったニーズが出てくるのではないか。

(村椿市長)

アンケートのやり方については、分野によって考えていかなければならないと思います。子育てや人口減についてはその世代のニーズはしっかり引き出さないといけないと思うので、ご指摘の点を踏まえてやっていきたいと思います。

○地域資源としての大学女子野球の取り上げ方について（まちづくり）

昨日三太郎塾が開校して、地域資源を生かして魚津を発信するという事で、色々な取組が行われている。今日、大学女子野球の閉会式があった。これだけの学生が毎年魚津に集ってくれるものは他にない。四年間魚津に来られて嬉しかったと涙を流している。世代を越えて愛され、魚津が聖地だと言われるものはなかなか無い。“蜃気楼の見える街魚津”だが“大学女子野球の街 魚津”というくらいに、より広めていくためのキーワードを発信すれば、内側からも外側からも盛り上がって、魚津にプラスになるのではないか。

(村椿市長)

大学女子野球についてはその通りで、毎年 500 人が魚津市に来ており、この時期魚津の平均年齢が下がる。素晴らしいことで、選手は魚津ファンになって成長していきます。すごいイベントなので、もっと発信していかなければと思っており、どうやっていこうか考えていたところなので、一緒に考えていきたいと思っています。

○財源の確保について（まちづくり）

魚津には素晴らしい施設があり、寄附や指定管理等で維持しているが、これからの財源をどのように確保していくか方策があれば教えて欲しい。

(村椿市長)

財源は、税と税外収入があります。地方交付税は、所得税など国税を集めて地方に配るものなので税と同様と考えます。一番大事なのは、人を増やすことです。人が増えれば交付税が増える。社会人であれば税金が増える。住めば固定資産税が増える。人を増やすには、産まれる子を増やすか、外から来る人を増やすか。人を増やすことが一番の財源対策になります。そのためには、企業を誘致したり、新しく起こしたりしなければならない。そういう動きを魚津でやっていきたいと考えています。

魚津は、可住地面積が少ないので、YKK や不二越のような大企業を持ってくることは無理です。今からの時代、大企業ではなく、小さくても付加価値の高い新しい企業を育てて持ってきてほしいと考えています。そうやって税や交付税を増やす。遠回りに見えても、人が増えることが一番の財源対策だと思っています。

税外収入については色々あります。例えば今年の秋から「たてもんの森」を整備していきます。それを整備するために内閣府にかけあって、企業版のふるさと納税の認定を

いただきました。市外に本社があり、魚津市に縁がある企業に、たてもんの森を整備するお金を協力してくれと働きかけています。ふるさと納税は返礼品が話題になり良いのやら悪いのやらと話になっているが、制度に則ってやれば結構だと思っています。

基本は、人を増やして税を増やしたい、それ以外に税に頼らないで工夫して事業を進められるようにしていきたいと考えています。

○不二越の会長の発言について（その他）

不二越の本間会長が「富山県人は優秀だが閉鎖的で採用しない」という発言があったが、市長の見解は。

（村椿市長）

全くそのようには思っていない。閉鎖的では無いし、優秀なのはその通りだと思います。

○タウンミーティングについて（まちづくり）

（村椿市長）

この後、どのような形のミーティングかはわかりませんが、色々な年代の方、仕事をしておられる方などに、現場で話を聞いてみたいと思っているので、機会を増やしていくつもりです。また、皆様と意見交換ができたらと思っています。